

## 第28回産業技術センター懇談会 懇談内容

(R6.3.5 オンラインと対面の併用開催)

### 懇談内容

- (1) 産業技術センターの構成
- (2) 令和4年度 懇談会の振り返り
- (3) 令和5年度 活動報告
- (4) 第8期 中期計画(案)

### A委員

チャットGPTの話はとても面白かったが、チャットGPTで申請書を作ると、みな同じものができて審査する側は困らないのか。

### 所長

意外と同じ質問をしてみても回答が毎回異なる。例えば、英語の穴埋め試験問題をお願いしてみると、毎回違う問題を作成してくる。

### B委員

産業技術センターは日本のなかでも高い評価を受けており、相談案件も多いとのことだが、分野によって相談案件のアンバランスはあるか。  
また、こういった観点で設備投資を行っているか。

### 所長

あまりアンバランス感を感じていないが、最近の傾向としては、生産管理システムの相談が増えてきているように感じる。産業支援機構のアドバイザーにも方にも入っていただいている。また、最近はAIについても相談がくるようになってきたと感じる。

設備投資については、基本的にはこれまで持っていた機器に対しての更新が多い。毎年、5カ年計画をというものを立てており、それに基づいて高額な機器はJKAの補助金を活用して導入している。

### A委員

マネジメントでの基礎力・基盤力について、具体的には何を身に付けようと思っているのか。  
また、人間力の具体的なイメージについて教えてほしい。

所長

基礎力・基盤力については、A I や自動化を進めると言っても、基のデータやデータの積み上げが必要であるため、特に経験がものをいう技術など、若手職員の技術力を向上していこうということ。

人間力については、企業が何に困っているか本質的な部分を聞き出し、一步踏み込んだ支援をしていくために、深く入り込んでいく力のこと。

C委員

D X 関係は非常に重要だと考えており、今度、群馬大学でもリモートD X イノベーションセンターというものを立ち上げる。D S L とも相性が良いと思っているので、産業技術センターの職員と一緒に、色々なディスカッションをする場所を作ってやっていきたい。また、スタートアップを作るにあたり、センター職員とも一緒に議論をして取り組んでいきたいと思っているので、令和6年度からの計画で、大学との連携による取り組みについても入れていただけるとありがたい。

所長

D S L については、非常にありがたいお話だと思っている。

連携については、ぜひ必要だと思っており上手くいけばよいと思う。

A委員

今のゴミ焼却場は廃プラが入ることで自立燃焼ができるため、廃プラがあまり取られてしまうとゴミ焼却場は困るのではないか。

また、バッテリーについて、産業技術センターが新たに取り組まれることを教えていただけるか。

所長

プラスチックの混入がゼロになることはないと考えるので、リサイクルの方向に舵を切っておかないとリサイクルを増やしていけない。

バッテリーについては、評価設備が全く足りていないので、充放電評価試験のところを強化したいと考えている。

D委員

具体的な取り組みや研究は、企業からのニーズに応じて設定しているのか。それとも、産業技術センターとして、職員が先駆けてやっていく必要があると思いき、取り組みを掲げているのか。設定の仕方について教えてほしい。

所長

そこは両方になる。企業からニーズをいただき、我々の技術を投入していくものと、AIなどは先駆けて導入し、企業に宣伝していたというものがある。

E委員

DX化には非常に興味を持った。繊維関係だと新しい設備を開発している分野は、非常に限られてしまうので、一度、繊維工業試験場か産業技術センターに伺うことを検討したいと思う。繊維関係も多く、ニーズの大小はあると思うが、どの産業にとっても有効な形の取り組みだと思った。一方で、染織といっても様々なニーズがあるなかで、懇談会が集約されてしまい、個別の意見や要望を持ち込む余地がなかったことが残念だと感じた。

所長

この懇談会は、産業技術センターの活動について評価をいただく場としているため、意見をいただく機能が不足しているのは確かにある。繊維の方は、来年度のやり方について論議していく予定にしている。

F委員

大学との協業をぜひ考えていただき、産官学でできることがあれば何か取り組みたいと思う。ものづくりをするだけでなく、群馬のなかで就職できるような道が見え、将来に繋がるような協業ができるとよいと思った。

所長

先日、移住希望地ランキングで群馬が二位になったが、その理由の一つに群馬の企業のよさを付け加えられたらという思いがある。協業をさせていただき、企業を盛り上げていきたい。

G委員

第8期中期計画に挙げている、具体的な取り組みについて、廃プラや二次電池の事業はすべて産業技術センターだけで引き受ける問題なのか。それとも他部署と協力関係を構築しているのか。

所長

二つともある。例えばここに挙げている廃プラのケミカルリサイクルについては、今のところ企業と産業技術センターのみで対応できている。ものによっては、環境森林部や農政部など他部署と協力していかないとできないものもあるので、案件ごとに応じてということになる。

#### G委員

ノウハウなどはオープンにできるのか。それともそこだけのものになるのか。

#### 所長

産業技術センターで開発した技術は特許を取得する。製品としては展開していくので、世の中には幅広く貢献できる。

#### H委員

産業技術センターの職員の育成はどのような形で行っているのか。

SNSでの発信はどのように行っていて、さらに今後どうしていきたいと思っているのか。作業標準がでるゴーグルについては、導入したいと思ったときに相談に乗っていただくことができるのか。

#### 所長

職員の育成については、自然とできてしまっている状況であるが、雰囲気づくりが大切だと思っている。

SNSでの発信については、共同研究を行った企業との研究成果や対談の様子などを動画制作しYouTubeで配信している。また、県庁の各部署で「3分でわかる所属紹介動画」というものを作成し、群馬県の公式サイトであるtsulunosにて配信している。今後については、Vチューバーなどができると面白いかと思っている。

作業標準がでるゴーグルについては、実装している企業があるので、DSLの見学や、実際に導入している企業の案内もできるかと思うので、ぜひ相談いただきたいと思う。

#### I委員

工業高校や専門学校を卒業した者を新入社員として雇っても、一人前になりそうな五年辺りで辞めてしまうという繰り返しが続いており、これが深刻な悩みになっている。産業技術センターにも相談して何とかしたいと思っているので、よろしく願いしたい。

#### J委員

新しい計画は、計画のなかに流れがしっかりできていてよいと感じた。人間力については、すべてのことに関わってくる重要なことだと思うので、人間力を高めて世の中に活躍していただけるとよいと感じた。デジタルについては、地方建設業は遅れており、一つの要因として人材不足が大きいと感じているので、育成のところなどは各社にとって有益な取り組みだと感じた。KPIについては、目的に沿った目標になっているので素晴らしいと思った。廃プラのリサイクルについては、日本環境設計の方から原材料や素材のもとまで落とし、新しい繊維を開発して医療衣服を売っているという話を聞いたので、こちらも追及して進め

ていただけるといいかなと感じた。

所長

引き続き進めさせていただく。

D委員

企業がアナログで行っていることをデジタル化することで、現場改善をしていくことが目的である。デジタル化することや、AIを活用することを目的としたアプローチではなく、企業の現場を改善するための手段としてのデジタル化といった意識を持って、アプローチ方法を変えていただくと企業も相談しやすくなると感じた。

所長

おっしゃる通り。DXを広げるのではなく、企業を楽にするために行うものであるため、我々は企業に対して困りごとはないかという聞き方をしている。ただ、回答がこないところが悩みどころでもあるので、いかに悩みごとを聞き出すかというところを教えていただければと思う。回答があった企業に対しては、デジタルがよいかアナログがよいかというところから始めている。

C委員

今、群馬の食がどう健康に良いのかを研究する食健康科学研究科という大学院を文科省に申請している。Gアナライズと非常に相性が良いと思っているので、そこも連携いただければと思っている。

所長

臨床試験など、我々ができないところができるということなので、ぜひよろしく願いしたい。

G委員

繊維関係とすると、高齢化と次を繋ぐ方がいないというのが一番の問題だと思っている。資金面の不足も要因である。生地の上げの検査などが機械化されると、職人の目で見ても大丈夫だと判断したものが、機械的に厳しく判断をされてしまうのか、その妥協も必要だと思う。

所長

人材不足に対して、技術的な面では我々が対応させていただく。生地の上げについては、AIは非常に人間的な判断をするので、その辺りは調整できるかと思う。

室長

産業技術センターでは技術面の支援をしており、県庁では補助金で技術開発の支援を行っている。人材不足については、なかなかすぐの特効薬はないが、他の課も含めて皆さんの魅力を上げるような、全体的なレベルアップを支援できるような形を取り組み始めている。

K委員

産業技術センターとは平成二十年頃から共同研究を行ってきて、職員の方々には中小企業の悩みごとに対する知恵をいただき、欲しい結果が得られるように一緒に考えていただいた。思い描いたものを形にするには時間が必要であり、DXやSNSでの発信ももちろんやるべき大切なことだが、小さい企業にどう見合っているのか、今取り組むべきことなのかということも考えてやっていただければと思う。群馬の企業のため、群馬ならではのところを残しつつ、企業を盛り上げていくことにお力をいただけるとありがたいと思う。

所長

その方向で行きたいと思っている。

B委員

産学官連携というなかで、産業技術センターは非常に期待すべき強力な存在であると思う。DXは中小企業にとってお金がかかる道具なので、ここを開発していただきシェアできる方向性は、これからの若いものづくり世代を中小企業で採用していくなかでも心強いと思う。スタートアップが盛り上がっていくなかでも、一番必要なのがアナログの技術だと思う。アナログベースに焦点を当てて、デジタル化していくような動きが出ていくと、さらに強力になるかと思う。

所長

おっしゃる通り。

L委員

弊社は生地の製造と縫製をやっており、シーツや布団・枕カバーの寝装品を縫っている。生地に不良があったり、縫製にミスがあったときに、繊維工業試験場に相談して適切な答えを出していただき本当に助かっている。今後はDXやAIといった色々なところで協力をお願いしたいと思った。

所長

ぜひ協力させていただく。

以上